

ニュースレター

いりおもての森から

令和4年3月

No 63

ピナイサーラの滝
滝上からの景観

地域に信頼される国有林に向けて コロナ禍でも精力的に業務を遂行

令和3年度のセンター業務を振り返って

令和3年度の西表森林生態系センターの業務を振り返って下田所長より一言いただきました。

今年度は西表島の世界自然遺産登録など様々な出来事がありました。コロナ禍ではあまたしたが、様々な規制の中でも業務の遂行に向けて邁進しました。また、「西表島横断」などの支援を通して当センターの存在をアピールできました。

来年度も地域に根ざした「西表森林生態系保全センター」として職員一同で取り組みます。

今年度は、昨年同様に新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、収束への先行きが見えない状況の中で業務をスタートすることとなりました。この様な中で今年度の業務を振り返ると、大きくは三点あります。

まず一点目は、西表島の世界自然遺産登録です。昨年7月26日「奄美大島、徳



西表森林生態系保全センター
所長 下田 勝也

之島、沖縄島北部及び西表島」が国際的に生物多様性の保全上重要な地域であることが高く評価され、我が国で5件目の世界自然遺産に登録されました。今後は、個々の課題解決に向け関係機関等と連携するとともに、西表島森林生態系保護地域の貴重な森林生態系の適切な保全管理と利用に努めて参ります。

二点目は、自然環境教育の推進です。当センターが作成した「西表島での自然環境教育カリキュラム」の認知度の向上及び活用される為の取り組みとして、島

内小中学校や支援団体への説明など精力的に進めました。また、大原、船浦両中学校の三人行事の一つ「西表島横断」では、センター全職員が参加し、支援を行いました。この「西表島横断」は、生徒が西表島の自然について理解を深め、自然への畏敬の念や保護する心を育てること等を目的とし実施されており、センター職員の中には、事前踏査と本番計4回も横断を行う強者もあり、生徒は勿論、教職員、保護者の方々からも感謝され、当センターの存在を大きくアピールする

ことが出来ました。

三点目は、各種調査業務の計画的な実行です。マングローブ林のモニタリング調査、台風被害地調査等、今年度は、マングローブ林のモニタリング調査が多い年でしたが、年度初めから取りかかったことにより新型コロナウイルス感染症による様々な規制を最小限にとどめる中、貴重なデータを得ることができました。あらためて仕事の段取りの重要性を痛感しました。

最後に、紙面に紹介できなかった多くの業務もありますが、この一年間各種調査事業で災害もなく無災害で終えたこと、健康で過ごすことが出来たことに感謝するとともに、令和4年度も、より一層地域に根ざした「西表森林生態系保全センター」として職員一同取り組みで参ります。



【引くに引けない満身創痍！の2人】



【世界自然遺産に登録された仲間川のマングローブ林】



【世界自然遺産登録証
(レプリカ)】

「西表財団」設立・始動へ

「西表島の豊かな自然と島の伝統的な営みを守るための活動」

る活動を実施していくこと
になります。



12月21日（火曜日）に、西表島の上原公民館においてWebも併用し、「西表財団設立準備会解散式」と「財団設立」を兼ねた会合が開催され、当センター職員2名がWebにて参加しました。

2016（平成28年）「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島世界自然遺産候補地地域連絡会議」の下に「西表島部会」が設置され、西表島が抱える様々な課題に継続的に対応していくためには、西表島に特化して課題解決に取り組む専任の組織が必要であるとの議論を踏まえ、2020年（令和2年）2月に「西表財団設立準備会」が立ち上がりました。

当日は冒頭、「西表財団設立準備会」解散式が行われ、その中で「一般財団法人西表財団」設立の報告があり、設立準備会会長から西表財団理事長への引継ぎのあと、解散宣言が読み上げられ式は終了しました。その後、「一般財団法人西表財団」初の会合となる第1回理事会が開かれ、事業計画、収支予算等に関する審議が行われ全会一致で承認されました。

「西表財団」設立に当たっては、財団の主旨に賛同する個人、企業、団体等からのクラウドファンディング等あたたかい資金提供を受け令和3年11月1日に「一般財団法人西表財団」として設立され、12月21日から本格的に始動となりました。

今後は、西表島の抱える様々な課題解決に取組みながら、豊かな自然と島の伝統的な文化や営みを守り、地域の持続的発展に寄与する活動を実施していくこととなります。

準備会には行政機関、地元有志、関係団体、有識者等、約50名が参加し、7回の準備会、2回の役員選考委員会、設立時役員会、設立時理事会の合計11回に及ぶ会合を重ねて「西表財団」設立に向けた準備が進めら



【「西表財団」第1回理事会】



【議論に聞き入る職員】



【「西表財団設立準備会」解散式】

生長の早さに驚愕

2年ぶりに海岸林自然再生試験地のモニタリング調査を実施

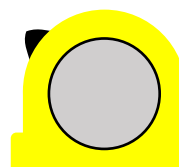
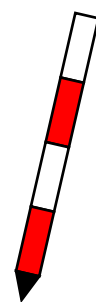


【植栽した樹木が大きく生長】

当センターでは平成20年度に外来種であるギンネムが侵入した南風見田海岸沿いの国有林にて、防風・防潮の持続的な機能が発揮できる海岸林の再生を目的として4つの試験地を設定し、ギンネムを伐採したうえで、テリハボクやフクギなどの在来樹種を植栽し、植栽木の生長量などを毎年調査しています。

令和2年度は諸般の事情により調査が実施できず、今回は2年ぶりの調査となりました。

2月17日（木）に今年度の調査を実施しましたが、当日は風がとて強く、最初は晴れていた天気も次第に曇り、最後には雨に降られました。日差しがあると2月でも暖かい西表島ですが、この日は風と雨のせいで肌寒く感じました。



下り坂の天気でしたが調査は順調に進行しました。無事に植栽した在来木の樹高の測定や定点撮影等によるデータを収集することができました。

植栽した在来木は順調に生長していました。2年間で樹高が2m以上伸びている植栽木もあり、生長の早さに驚くばかりでした。

当センターとしては今後とも、在来木による海岸林の自然再生について経過を調査して参ります。



西表島の樹木いろは



【かわいらしい青い小さな花を咲かせる】

アオバナハイノキ

常緑の小高木で樹高は4〜8mです。葉は薄い革質で、長さ4〜10cm、幅2〜4cm、ごく低い鋸歯がありまです。葉腋から総状花序を出し青紫色の花が3月〜4月に花が咲きます。

（出典…西表島の植物誌）



【樹高を測定中】

マラリアの特効薬キニーネの原料 「キナノキ」の生態を学ぶ

「日本の薬用植物勉強会」が開催・

西表小中学校にクソニンジン（クソニンジン）の苗を贈呈し

3月5日（土曜日）に、総合地球環境学研究所L I N K A G Eプロジェクト主催による「日本の薬用植物勉強会」が石垣市の竹富町役場仮庁舎ホールで開催され、当センターをはじめ、石垣市、竹富町、八重山戦

争マラリア遺族会等が参加しました。勉強会では、昭和30年代半ばまで八重山地方で猛威を振るったマラリアの実態を背景に、主催メンバーの神戸女子大学非常勤講師・李春子氏から「マラリアか

ら島民の命を守ったキナノキを象徴に、八重山地方の薬草を見直し、植物の力を未知なる潜在的な様々な可能性や未来に向けての希望のメッセージとして発信したい」と挨拶がありました。続いて、西表熱帯林育種技術園々長・千吉良治氏と武田薬品工業京都薬用植物園課長代理・坪田勝次氏を講師に、キナノキ栽培には厳しい八重山地方における

温度管理や通気性等育成のポイントや、国内におけるキナノキの歴史や栽培の状況、苗木の繁殖方法や含有成分などの講演がありました。質疑応答では、参加者から挿し木苗による繁殖の活着率や母樹の扱い、また「戦争マラリアなど過去の歴史を伝えるためにも是非育ててみたい」など様々な意見質問が出されました。また、3月7日（月曜

日）には、主催者メンバー（当センターも同行）は西表小中学校（仲地みゆき校長）を訪問し、八重山地方における薬用植物の重要性を説明し、キナノキ同様にマラリアの特効薬の成分を含むクソニンジン（クソニンジン）の苗を贈り、児童生徒にマラリアの脅威を語る「緑の伝道師」としての活用をお願いしました。

※クソニンジン…キク科、一年草、別名・ホソバニンジン、バカニンジン、独特の悪臭あり、用途・発熱、日射病、熱射病、寝汗やマラリアなどの清熱薬。特に含有成分のアレミシニン（マラリアに効果を発揮し、2015年のノーベル生理学・医学賞につながった（出典…熊本大学薬学部薬草データベースより））。



【八重山の薬用植物について学習】



【キナノキについて説明する坪田講師】



【西表小中学校に送られたクソニンジン（クソニンジン）の苗木】



【西表小中学校を訪問し対応して頂いた仲地校長（右端）、池原教頭（右から2番目）と訪問した皆さん】

西表島の美しい海を後世に

南風見田海岸ビーチクリーンアップ活動に参加



【暑い中、みんな頑張りました。】

3月13日(日曜日) 14時から八重山地区の海洋環境保全推進活動を行う団体「八重山環境ネットワーク」の主催で南風見田海岸のビーチクリーン活動が開催され、当センター職員3名、沖縄森林管理署大原森林事務所森林官1名及び租納森林事務所森林官1名が参加しました。

南風見田海岸は西表島東部に位置し、近隣にキャンプ場などもあることから、観光客をはじめ地元の方も利用する、訪れる人が多い海岸で(活動中にも観光客や地元が数名訪れていました)、一帯は南風見国有林172林班となっており、当センターの漂流・漂着ゴミの定点観測地点でもあります。

当日は、地元スポーツ少年団の子供達とその保護者等、総勢30名以上でビーチ

クリーン活動を実施。

現地に到着すると一見漂着ゴミがあまりないように見えたが、なんのなんの沢山の漂着ゴミが、砂に埋もれたり、林内に入り込んだりしていました。

参加者は約2時間、精一杯クリーン活動を実施し、ペットボトルと発砲スチロールはそれぞれトン袋が一杯になり、その他の漂着ゴミもゴミ袋(45リットル)約30袋分を回収することができました(子供達が黙々と一生懸命頑張っていました)。

今回、スポーツ少年団の活動の一環ということで、沢山の子供達が参加しておりましたが、学習等の観点からすればいい機会だと思っただけで、大人の責任を感じました。

参加した子供達が大人になる頃には、南風見田海岸から漂着ゴミがなくなっていることを願うばかりです。

西表島の樹木いろは



【おいしそうな実だが有毒】

原野や海岸などの荒地に良く生え、高さ1〜3mで枝がよく分かれている常緑から半常緑(6月から7月頃一部落葉)の低木です。花は黄色で枝先につき、実は楕円状球形で赤色に熟し有毒です。樹皮は和紙を作る原料になります。

(出典…西表島の植物誌)

アオガンピ



【いろんな種類のゴミで袋がいっぱい！】



【集めたごみはしっかり分別】



西表島における自然環境教育について 活発な意見交換

令和3年度自然環境教育推進のための連絡会議を開催



【活発な意見交換・議論が行われた自然環境教育推進連絡会議】

3月15日（火曜日）、西表島の船浦地域活性化施設（ときめきホール）において、「自然環境教育推進のための連絡会議」を、関係行政機関、各種団体等及び西表島内の各小中学校の先生方の出席のもと開催しました。

今回の会議では、西表島内の小中学校が実施した今年度の自然環境教育の活動、各行政機関・各団体等が実施した支援内容の報告が行われ、また、当連絡会で作成された「自然環境教育カリキュラム」の活用について、事務局である西表森林生態系保全センターが西表島内の各小中学校に出向きカリキュラムの説明会を実施したことを報告しました。

昨年度に引き続きカリキュラムの周知方法、カリキュラムが活用される仕組み作り、相談窓口やカリキュラム自体の改訂にかかる記載内容の是非、連絡会議の開催時期など出席者から様々な意見・要望が出されるなど、活発な意見交換の場となりました。



【西表島横断中、カンピレーの滝でつかの間の休憩】



【西表小中学校の秋見つけ元気いっぱい林内を散策】

ゆんたく

「アンテナを高く張って情報を収集する、収集した情報を活かして発信をする」▼重要なことだが、これがなかなか難しい▼情報を収集する方法はたくさんある。新聞、テレビ、週刊誌などは個人の情報発信が主流になっている▼西表島が世界自然遺産に登録されて約8ヶ月が過ぎた。登録当初は新型コロナウイルス感染症の影響で少なかった観光客も今は少しずつ増えてきた。西表島を訪れた観光客がTwitterやFacebook、InstagramなどのSNSで感想や写真を載せる。これも情報発信である▼今年度の当センターのキーワードの1つは「発信」であった。当センターホームページの西表森林生態系保全センターの活動（トピックス）で活動の記事にして発信した。トピックスの記事は現在60本越えた▼筆者はまだまだ情報収集も情報発信も未熟。アンテナを高く張って情報を収集し、収集した情報を活かして発信できるように精進の日々である（凧）



編集者一言

表紙・裏表紙ともにピナイサーラの滝でそろえました。ピナイサーラの滝はピナイ川の間地点にあり、その落差は54mと沖縄県第1位を誇ります。

裏表紙：ピナイサーラの滝（空撮）

林野庁 九州森林管理局 西表森林生態系保全センター
〒907-0004 沖縄県石垣市登野城55-4 石垣地方合同庁舎内
TEL：0980-88-0747 FAX：0980-83-7108

URL: https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/iriomote_fc/index.html

